

竹の子川柳会

うしろまえくびがもにやもにやしてました

小一 西村 楓斗

おみやげをみんなてわけるおいしいな

小二 新野 翔太

声聞くとうしろふりむくくせがある

小五 山田 清也

かげぼうし後についてはなれない

小五 小原 麗羽

青い空いつもかわらず平和だな

小六 梶野 海斗

青い海魚たくさん泳いでる

中一 淵本ななみ

青色のしおからトンボ飛び回る

中三 菅元 聖羅

青い海どこまでつづくみてみたい

中三 清原 瑠依

幸せとふっこう願う青い空

中三 吉良ちひろ

うしろから視線を感じふり返る

高一 清原 沙耶

背景は青い絵の具で描いた空

高二 宮崎 京

後向きハイタッチして切り替える

高三 上岡 夢菜

どこまでも見渡す空は深い青

高三 榎 美咲

行列のうしろにならぶ長すぎる

高三 宮川 直輝

老い二人朝は薬のチェックから

若宮 賢敬

アドリブに長けた友あり場が和む

渡辺 照子

憲法をいじり定規が狂いだす

米子 達雄

白無垢が次はあなたと手にブーケ

男武志津江

大丈夫その一言に救われる

伊勢本 恵

ときめきと恥じらいうれし傘の中

山本 雅之

妻おらずチェック機能が働かず

川添 忠昭

価値を見る我が物差しはまだ余い

熊本 忠真

ストレスがどこ吹く風の楽道家

渡辺 光男

白熱の試合始まる甲子園

水野すみこ

晴れのち曇人生なんてそんなもの

加藤 桂子

さわやかに豊作願う早苗波

宇都宮 忍

ポイントを赤鉛筆がチェックする

宮川 柳酔

ひよし川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第3回】

「弥生時代の鬼北」

縄文時代に続く弥生時代は、大陸から北部九州に稲作農耕文化が伝わり、列島各地へと広まった時代です。日本文化の源流といえは、まさにコメ作り。コメ作りへのあくなき挑戦が始まった時代でした。水田を営むためには、広い土地と水を引き込むために、水路や堰などの施設が必要になります。南予は、ご存知のとおり、平野の少ない地形です。コメの生産を向上するためには、土地の開墾や地形造成といった土地の開発に長い年月と労働力が注がれてきた歴史があります。

町内で弥生時代の遺跡は、今のところ、興野々の成福寺裏の小高い丘陵上に位置する興野々寺山遺跡が唯一です。発掘調査では、弥生時代終末頃の竪穴住居9棟と、集落の外周を廻らせた2本の溝などが確認されました。いわゆる「環濠集落」ですが、西南四国では初の発見でした。この遺跡で特徴的なのは、非常に小さなサイズの竪穴住居ばかりで構成されていることです。また、その建て方にも特徴があり、通常は住居の屋根棟を支えるための柱跡が

床面で確認されますが、ここではどの住居にも柱穴が認められませんでした。こうした特徴は、近隣の遺跡でも見つかっていない独特な特徴です。「興野々寺山遺跡竪穴住居復元プロジェクト」では、この竪穴住居を復元的に建てて、当時の集落景観を想像できるようにしようと、地元の方々とともに、数年かけて竪穴住居を作ってきました。

丘の上に集住し、コメ作り挑戦し始めた、鬼北で最初の集落。それが、この「興野々寺山遺跡」です。ぜひ立ち寄ってみてください。



手作りで復元された鬼北の弥生集落